

教科	社会	単元名	世界のなかの日本とわたしたち
----	----	-----	----------------

本時のねらい

教科書に例示されている4か国の中から、自分がさらに深く知りたいと思った国の文化や特徴を調べ、スライドにまとめることができる。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

- 一人ひとつの国を調べ、スライドにまとめることで、他国の文化や習慣について理解する。
- 適切な資料を選び、活用できるようになる。
- この学習で自分が伝えたいことに合うプレゼンテーションアプリを選び、活用することができる。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・タブレット PC
- ・Google スライド
- ・大型モニター
- ・Keynote

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (5分)	○本時の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自分の調べたい国について、適切な資料を選んでスライドにまとめよう</div>	
展開 (35分)	○日本とつながりの深い国の4か国の中から1か国を選び、その国についての文化や特徴を調べ、適切なアプリケーションでまとめる。 ○作ったスライドを共有する。	・必要なアプリケーションを選び活用できるようにする。(Google スライド、Google ドキュメント、Keynote、Pages、Numbers 等) ・自分が伝えたいことに合うアプリケーションはどれか、考えさせる。 ・子どもたち同士でスライドの工夫を紹介できるようにする。
まとめ (5分)	○振り返りを行う。	・今日の授業の振り返りをタブレットで行う。(Google フォームを使い、振り返りを行うことで、児童が使用に慣れていくようにする。)

1人1台端末を活用した活動の様子



教科書の記述をもとに、文章を作成し、スライドにまとめている場面



教科書にある円グラフを活用するために、スライドに挿入しようとしている場面



今日の学習でまとめたスライドを大型モニターに映して共有している場面

児童生徒の反応や姿容

- ・児童にとって興味のある国を調べたことで、学習に集中して取り組み、より深くその国のことを知ることができた。
- ・今まで使用してきたプレゼンテーションアプリの活用を思い出し、どのアプリを使えばこの学習で自分が伝えたいことを表現できるか、児童自身が考えていた。
- ・書くことに苦手意識のある児童もタブレットを使ってまとめることにより、学習に意欲的に取り組むことができる。さらに、家庭に持ち帰ってからでも取り組む児童もいた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・子どもたちが主体的に調べる様子が見られた。これまでのタブレットを使った経験を生かすことのできる授業となった。
- ・自分が調べていない3か国については、お互いにタブレットを見せ合い、日本の様子と比べたり、自分の調べた国と比べたりをすることができた。
- ・調べ学習の前に、情報モラル学習として、情報の信憑性を確認する学習活動をおこなった。インターネット上にある情報すべてが正しいとは限らず、情報の確認や取舍選択をおこなうよう指導した。